

『東洋学研究所集刊』・『東アジア学術総合研究所集刊』

第一集～第五〇集 総目次

第一集～第三四集 『東洋学研究所集刊』

第三五集～ 『東アジア学術総合研究所集刊』（『東洋学研究所集刊』から改題）

『東洋学研究所集刊』

第一集 一九七一年三月一日発行

詩經に見える周初に於ける王の資格―民族宗教人として―……………加藤常賢……………一

五四風潮史論……………熊野正平……………一九

漢詩にあらわれた漱石の『道』について……………佐古純一郎……………四七

隨筆的方法による假名草子―系列間の混淆に著目して―……………田中伸……………六三

敦煌文書より見た唐代寺院財政史の一知見……………三島一……………八五

後漢書の日月食記事からみた後漢書倭傳……………大谷光男……………一一五

第二集 一九七二年三月三一日発行

屈原「懷沙の賦」の序詞を讀みて……………橋川時雄……………一

四書の順序とその意義

古代中國人の思想と生活―漢字における潜在思想について―

市川安司……………四五
深津胤房……………六九

『源氏物語』創作へ紫式部を駆り立てたもの

岡 一男……………一一三

陽明文庫所藏近衛家三夫人の日記

花田雄吉……………一三五

徳一『中邊義鏡』について(一)

田村晃祐……………一五七

第三集

一九七三年三月三十一日発行

皋と羔

加藤常賢……………一

宋書の日食記事からみた宋書倭國傳

大谷光男……………一九

「二人比丘尼」の原型「須田彌兵衛妻出家繪詞」と「同妻物語」に關連して

田中 伸……………三五

戯曲構造論―中國劇を手がかりとして―

飯塚友一郎……………七七

比較文學の視點と方法―風土學との關連についての試論―

劍持武彦……………一〇一

第四集

一九七四年三月三十一日発行

假名草子女訓論

青山忠一……………一

枕冊子「市は」の段の配列意識

雨海博洋……………二三

古代中國人の思想と生活―漢詩における潜在思想について―

深津胤房……………四一

第五集

一九七五年三月三十一日発行

北原白秋「たんぼぼ」の一考察	劍持武彦	一
芥川龍之介小論	田所 周	二七
古代中國人の思想と生活―「同姓不婚について」―	深津胤房	四五
慢詞の構造について	田森 襄	七三
第六集 一九七六年三月三十一日発行				
演劇現象における行動主義―藝能の本意に關連して―	飯塚友一郎	一
志貴皇子系諸王の歌―大伴家持との交遊に關連して―	岸 哲男	二五
古代中國人の思想と生活―血による祓いについて―	深津胤房	四一
第七集 一九七七年三月三十一日発行				
王陽明の心即理説に關する一考察	市川安司	一
古代中國人の思想と生活―敬意の表現について―	深津胤房	三九
西鶴雜考	田中 伸	七五
第八集 一九七八年三月三十一日発行				
染殿内侍考	雨海博洋	一
『女訓抄』の研究	青山忠一	二五
「離騷」の様式について	赤塚 忠	四五

聊齋志異と閱微草堂筆記

齋藤喜代子……………一九一

古代中國人の思想と生活―「竹」の美について―

深津胤房……………一〇九

天子神璽と三種神器との關係

大谷光男……………一四五

第九集 一九七九年三月三十一日発行

好色五人女私論―歌舞伎狂言を意圖した作品としての可能性―

田中 伸……………一

芥川龍之介「大川の水」論―すみだ川文學とヴェネツィア文學の合流―

劍持武彦……………二一

「若草の」という枕詞と八千矛神の妻覓ぎの歌問答

赤塚 忠……………三七

中國における大衆語、大衆文藝について

久保田美年子……………六一

説話と貴族日記

花田雄吉……………八一

第一〇集 一九八〇年三月三十一日発行

古代中國人の思想と生活―「被髮左衽」(未開人の風習)について―

深津胤房……………一

いわゆる「傷痕文學」をめぐる

齋藤喜代子……………五九

崇神紀考

山崎正之……………八一

法華譯和尋跡抄所引法華經古訓と足利本假名書き法華經について(上)

林 義雄……………一〇五

ブツダパーリタ根本中註釋書第一章和譯

奥住 毅……………一三九

第一一集 一九八一年三月三十一日発行

古代中國人の思想と生活―鏡による祓いについて―…………… 深津胤房…………… 一

『女仁義物語』考…………… 青山忠一…………… 二九

中國文化の特質…………… 洪 樵裕…………… 六一

『論語』が取り上げる魯の君主と三桓の大夫についての思想史的考察…………… 小野澤精一…………… 八七

第二二集 一九八二年三月三十一日発行

『講究』について…………… 齋藤喜代子…………… 一

古代中國人の思想と生活―「深則厲、淺則揭」(裸體の醜)について―…………… 深津胤房…………… 二三

漱石文學と『ドン・キホーテ』…………… 劍持武彦…………… 六五

第二三集 一九八三年三月三十一日発行

『見ぬ京物語』の研究…………… 青山忠一…………… 一

『大和物語虚静抄』の著者木崎雅興の人と學問…………… 雨海博洋…………… 二七

沙門良寛の歌…………… 飯田利行…………… 四一

推古朝冠位十二階の「當色」について…………… 岸 哲男…………… 五七

古代中國人の思想と生活―「鷹化爲鳩」(輪廻思想の萌芽)について―…………… 深津胤房…………… 七一

第一四集 一九八四年三月三十一日発行

武丁の征伐について…………… 赤塚 忠…………… 一

西鶴に見る女訓的傾向について…………… 青山忠一…………… 三七

「是」の字義と詞性とその靈用…………… 高木 宣…………… 六三

『おくのほそ道』と『徒然草』…………… 廣田二郎…………… 七七

古代中國人の思想と生活―「影」について…………… 深津胤房…………… 八七

芥川龍之介「戯作三昧」新考…………… 劍持武彦…………… 一九

天草本平家物語の依據本についての考察―斯道本卷八の缺卷を補ふもの―…………… 鎌田廣夫…………… 一三五

第一五集 一九八五年三月三十一日発行

檀君神話の歴史性に關する研究―檀君神話形成の歴史性を中心に…………… 都 玼淳…………… 一

古代中國人の思想と生活―香りによる祓いについて…………… 深津胤房…………… 四一

第一六集 一九八六年三月三十一日発行

古代中國人の思想と生活―武器による祓いについて…………… 深津胤房…………… 一

「兒女英雄傳」雜考…………… 齋藤喜代子…………… 四一

中洲法律關係文書―『民法草案』―…………… 深津胤房…………… 六一

第一七集 一九八七年三月三十一日発行

續左傳民俗考…………… 江頭 廣…………… 一

古代中國人の思想と生活―「喪」の起原について…………… 深津胤房…………… 二九

中洲法律關係文書―『中洲手控』―……………七五

第一八集 一九八八年三月三十一日発行

古代中國人の思想と生活―「則天」の美について……………一
深津胤房……………一
孔子における顔淵と宰我の位相―孔子門下の德行派と言語派の人びと……………四一
乾 一夫……………四一
『源氏物語』と『記紀神話』……………八五
山崎正之……………八五

第一九集 一九八九年三月三十一日発行

再考『一休・二人比丘尼』……………一
青山忠一……………一
伊都内親王の歎き……………二一
雨海博洋……………二一
〈翻刻〉かんやう宮(上・下二卷)……………三九
松田 存……………三九
古代中國人の思想と生活―「璧」(装身具)について……………五九
深津胤房……………五九

第二〇集 一九九〇年三月三十一日発行

夏目漱石の人格意識―その序論的考察として……………一
佐古純一郎……………一
意識と風土に關する一考察―文學と心理學の交叉から……………一九
中村 宏……………一九
〈翻刻〉穂久邇文庫「かんやう宮」(上・下二卷)……………三七
松田 存……………三七
古代中國人の思想と生活―「裝飾」の起原について……………五三
深津胤房……………五三
甲骨文字による殷代金文の時期推定(一)……………八一
浦野俊則……………八一

米元章の奇癖 源川 進 一〇一

鳩摩羅什譯『父母恩重難報經』の性格 新井慧譽 一三三

第二一集 一九九一年三月三十一日発行

「四次元」人生から「三次元」人生へ―芭蕉から子規へ― 深津胤房 一

『史記』「秦楚之際月表」について 川久保廣衛 二一

顧愷之の人と藝術 源川 進 五五

〈翻刻〉スペインサー・コレクシヨン「かんやう宮」(上・下二卷) 松田 存 七九

『祇園物語』の研究(上) 青山忠一 九九

土岐善麿「倭建抄」考―「歴史の中の生活者」ということ― 今西幹一 一二九

『二松學舎大學東洋學研究所集刊』総目次(昭和四十五年度―平成元年度)

総目次著者別索引

第二二集 一九九二年三月三十一日発行

日本古代の具注曆と大唐陰陽書 大谷光男 一

「尼と地藏」と「偷盜」と―芥川龍之介と室生犀星― 松本寧至 一九

『妙正物語』の研究(上) 青山忠一 四七

近代短歌におけるヤマトタケルの形象とその物語の抒情化(二)―武川忠二「倭建」をめぐって― 今西幹一 六七

史記匈奴列傳について―史記論贊の筆法― 川久保廣衛 七七

洛神十三行 源川 進 九七

古代中國人の思想と生活―「風流」について 深津胤房 一二三

第三集 一九九三年三月三十一日発行

『妙正物語』の研究(下の二) 青山忠一 一

〈翻刻〉スペンサー・コレクション卷子繪卷「ちやうりやう」 松田 存 二一

「風流」の人―漱石― 深津胤房 四一

『洛陽伽藍記』と説話 大地武雄 六七

チベット文『父母經』とパーリ語相當分 新井慧譽 (左二)

第二四集 一九九四年三月三十一日発行

『祇園物語』下の研究(構成篇) 青山忠一 一

古代中國人の思想と生活―「色」について 深津胤房 二三

芥川龍之介「英雄の器」成立試論 松本寧至 一七

正岡子規の翻訳新体詩―「時鳥」について 今西幹一 一四一

第二五集 一九九五年三月三十一日発行

『正三・二人比丘尼』の研究 青山忠一 一

〈翻刻〉有節自撰『五仲庵有節句集』 矢羽勝幸 二七

「夙夜」より見た『詩經』詩篇の新古に就いて……………家井 眞……………七五
 『老子』について……………深津胤房……………九三

Lafcadio Hearn : The Lion考……………前田式子……………(左一)

第二六集 一九九六年三月三十一日発行

紅樓夢圖畫―改琦『紅樓夢圖詠』を中心に……………伊藤漱平……………一

和仁古(大和国神別)と中平紀年銘大刀―附・奈良県天理市和爾町有文書概要……………大谷光男……………三一

「羅生門」と「橋の下」―芥川龍之介と森鷗外……………松本寧至……………五一

『詩經』に於ける「君子」に就いて―祖靈祭祀詩を中心として……………家井 眞……………七九

陶淵明の身後の名……………大地武雄……………九五

新出『住吉物語』考―〈翻刻〉とともに……………松田 存……………一〇七

溝口素丸七十七回忌集『青ひざり』……………矢羽勝幸……………一八三

第二七集 一九九七年三月三十一日発行

『百八町記』の研究(思想編) 上……………青山忠一……………一

伯姫に対する『三伝』の評価……………田村和親……………三一

『承久記絵巻』について―新資料紹介……………松本寧至……………五三

〈講演〉アメリカの中国観……………山極 晃……………八三

王朝文学の形成基盤……………雨海博洋……………九五

〈彙報〉一九九六年度研究所報告……………一〇九

編集後記

第二八集 一九九八年三月三十一日発行

『百八町記』の研究（思想篇）下……………青山忠一……………一

《紅樓夢》の宴について……………斎藤喜代子……………三七

謝靈運山水詩における自然描写の特質……………牧角悦子……………五七

雷神信仰の一考察―福島県会津高田町の事例を中心に―……………谷口 貢……………七五

〈講演〉女王卑弥呼の金印をめぐる―『翰苑』倭国伝から推測した―……………大谷光男……………九一

長期平成不況のメカニズムと日本経済の展望……………常盤政治……………一〇七

〈彙報〉一九九六年度研究所報告（追録）…………………………一二七

一九九七年度研究所報告…………………………一二八

編集後記

第二九集 一九九九年三月三十一日発行

『万葉集』末四巻について……………針原孝之……………一

『大和物語』初段の史実的和歌解釈と初段の意味するもの……………山崎正伸……………二五

笛譜の注釈の流れについて―『龍吟抄』をめぐる―……………磯 水絵……………四三

加舎白雄の奥羽行脚について（上）……………矢羽勝幸……………七一

『公羊伝』の「絶」の認識……………	田村和親……………一五二(左二)
〈講演〉『高瀬舟縁起』をめぐる――煩惱即菩提こそ文学永遠のテーマ……………	青山忠一……………一五五
黄土の国・桜の国―日中異同の弁―……………	衛藤藩吉……………一七七
江戸文化と現代……………	竹内 誠……………一九一
〈彙報〉一九九七年度研究所報告(追録)……………	……………二二三
一九九八年度研究所報告……………	……………二二四
編集後記……………	

第三〇集 二〇〇〇年三月三十一日発行

稲荷信仰と地域社会……………	谷口 貢……………一
加舎白雄の奥羽行脚について(下)……………	矢羽勝幸……………二一
『詩経』清廟之什の構成に就いて……………	家井 眞……………三九
戦国儒学の歴史認識……………	田村和親……………七五
近代中国を詠んだ女流歌人……………	中村 義……………一〇三
《四世同堂》における日本人像……………	武永尚子……………一六二(左二)
〈講演〉一九四〇年代の米中関係……………	山極 晃……………一六五
中国研究と私……………	中村 義……………一八一
中国書誌学の現状……………	高橋 智……………二〇三
〈彙報〉一九九八年度研究所報告(追録)……………	……………二二五

一九九九年年度研究所報告	二二五
編集後記	

第三一集 二〇〇一年三月三十一日発行

麟徳具注暦（正倉院）と宣明具注暦（敦煌）―各断簡（残暦）間の暦注について―	大谷光男	一
岡山県域の二つの農書―近世農書の地域的特性―	神立春樹	一九
恵比寿信仰の地域的展開―近世のエビス講を中心に―	谷口 貢	四一
遠藤周作試論（母なる神―西洋キリスト教と日本人の宗教観の相克と、宗教多元論的解決）	本多峰子	五五
『墨子』の統治システム論とその思想的限界	田村和親	八三
中国近代を詠んだ詩人―兎玉花外と孫文・陳其美・黄興―	中村 義	一一一
〈講演〉尊経閣文庫蔵『土左日記』は定家右筆本にあらず	清水義昭	一五五
ハンコの話	石野 實	一七七
『蜘蛛の糸』から『杜子春』へ―芥川龍之介の童話―	松本寧至	二〇三
〈彙報〉一九九九年年度研究所報告（追録）		二二七
二〇〇〇年度研究所報告		二二八

編集後記

第三二集 二〇〇二年三月三十一日発行

西鶴発句一覽稿	竹野静雄	一
---------	------	---

日本の近代景観の形成と変化―近代景観史学への展望―	神立春樹	三九
『詩経』 臣工之仕の構成に就いて	家井 眞	五五
日本にある日本語学校の外国人在学生に関する実態調査	渡邊了好	九一
中國文化と日本文化―「仁義」をめぐって―	深津胤房	一一七
〈講演〉 朱子学と陽明学―三島中洲の思想詩をめぐって―	松川健二	一三九
再考・近代日本のアジア認識	佐藤一樹	一六一
〈彙報〉二〇〇〇(平成一二)年度研究所報告(追録)		一七三
二〇〇一(平成一三)年度研究所報告		一七四

編集後記

第三三集 二〇〇三年三月三十一日発行

古代中国人の思想と生活―「文化」と「文明」について―	深津胤房	一
『源氏物語』 逸文雲隠をめぐって―新資料翻刻とともに―	松田 存	二七
最近中国の教育改革―大学入試と就職方法の変革―	溝口貞彦	四五
日本の江戸時代の農書―その歴史的意義―	神立春樹	七三
房山石経の『父母恩重経』の『丁蘭本』新資料〈房40B〉について	新井慧誉	九五
〈講演〉 中国現代学生の心の問題とその解決	陳 忠	一一三
〈彙報〉二〇〇二(平成一四)年度研究所報告		一二一

編集後記

第三四集 二〇〇四年三月三十一日発行

架蔵『枕草子春曙抄』の清水浜臣注について	山崎正伸	一
「頼政」「鶴」、そして「通円」―謡曲(能)・狂言姉妹曲の一考察―	松田 存	三三
近代短歌におけるヤマトタケルの形象とその抒情化(二)―宮柊二「悲歌」(歌集『群鷄』)について―	今西幹一	五一
古代中国人の思想と生活―「倫理」と「倫常」について―	深津胤房	七九
『詩経』の中のエロス―桃の夭夭たる―	牧角(竹下)悦子	一〇七
陶淵明の分身化	大地武雄	一一九
明治前期に來日した中国文人考	王 宝平	一二九
近世の一事件調書にみる農村民の生活	神立春樹	一六五
『海嶺』における江戸時代日本人のキリスト教との出会いについて―岩松、音吉、久吉の場合―	本多(内田)峰子	二〇七
房山石経の『父母恩重経』の『古本』新資料〈房4〉〈房5〉〈房7〉について	新井慧譽	二二七
嘉永七年のアイヌ語―特に『蝦夷紀行』について―	成田修一	二四九
〈研究補助報告〉		
巴金《随想録》にみる怒りの足跡―文化大革命が中国文壇に及ぼした影響―	久保田美年子	二六七
日韓併合当時の大韓帝国政権に関する一考察―伊藤博文と宋秉畷、一進会を中心に―	柳 尚熙	二九五
〈講演〉『和泉式部日記』執筆意図	菅根順之	三三一
巴金《随想録》にみる怒りの足跡	久保田美年子	三三九
〈彙報〉二〇〇三(平成一五)年度研究所報告 附国際漢字文献資料センター報告		三五三
編集後記		

『東アジア学術総合研究所集刊』（『東洋学研究所集刊』から改題）

第三五集 二〇〇五年三月三十一日発行

近代日本高等教育制度史における二松学舎	……………	神立春樹	……………	一
大英博物館所蔵の敦煌発見「父母恩重経变相画」（英画）について	……………	新井慧誉	……………	三三
陶淵明の分身化（二）	……………	大地武雄	……………	四七
西田幾多郎の科学観と日本の近代	……………	三島正明	……………	五七
〈犠牲〉という様式美―高橋たか子の表現様式について―	……………	関野美穂	……………	九五
『斧の柄』のアイヌ語	……………	成田修一	……………	一〇七
〈研究補助報告〉				
柳亭種彦と西鶴―西鶴受容史の総合的研究の内―	……………	竹野静雄	……………	一二五
日韓文学関連研究―一九一〇年代の川路柳紅と朱耀翰―	……………	呉 英元	……………	一五七
張承志が求めたもの	……………	武永尚子	……………	二二八(左二七)
ユダヤ・キリスト教と日本	……………	本多峰子	……………	二四四(左三)
〈講演〉こんなふうには、小説を書いてきた―私が二松学舎で学んだこと―	……………	志賀 泉	……………	二四五
陽明学に学ぶ『小信を重んじる』生き方	……………	林田明大	……………	二五七
〈彙報〉二〇〇四（平成一六）年度研究所報告	……………		……………	二七五

編集後記

第三六集 二〇〇六年三月三十一日発行

大井川の紅葉と花―『大和物語』九九段と一〇〇段の解釈をめぐって―	山崎正伸	一
随鷗吟社の創立に就いて―明治後期に於ける漢詩結社の活動―	山辺進	一三
『十恩徳讃』について	新井慧誉	三三
内なる曠野―高橋たか子「相似形」論―	関野美穂	五九
〈研究補助報告〉		
中国における教育経済学の展開	溝口貞彦	七七
語られるべき「私」の生成―日露戦争後の『太陽』に即して―	山口直孝	九九
日本におけるキリスト教受容の問題―文学を通しての考察―	本多峰子	一五八(左二)
〈講演〉書道と碑法帖―拓本はこんなにもしろい―	伊藤滋	一五九
インドと日本の交流	セツト・アフターブ	一八三
〈彙報〉二〇〇五(平成一七)年度研究所報告		一九一

編集後記

第三七集 二〇〇七年三月三十一日発行

〈特別寄稿〉「阪神間モダニズム」における大衆文化の位相		
―宝塚少女歌劇と手塚治虫の漫画に関連して―	竹村民郎	一
中国人の法意識―序論編―	何鳴	三三
『大明釋教彙目義門』の成書と萬曆版の出版	會谷佳光	四五
漱石漢詩の一考察	大地武雄	七一

存在の輪郭を求めて―高橋たか子「渺茫」論―	関野美穂	八五
『改正蝦夷全図』所収のアイヌ語について	成田修一	一一一
拾遺和歌集の構造―古今和歌集・後撰和歌集の重出歌を通して―(三)	山崎正伸	一四一
俳人倉田葛三年譜―虎杖庵時代以後を中心として―	矢羽勝幸	一六七
幕末中京文人連の西鶴受容―事項・出典一覧(その一・笠亭仙果)―	竹野静雄	一九三
〈研究補助報告〉		
『福富草紙』(上巻) 注釈	小山聡子 五月女肇志	二二九
〈彙報〉二〇〇六(平成一八) 年度研究所報告・投稿規定・編集後記	原由来恵	
タイにおける観光産業の比重	田村紀之 ポートン・パラウイット	(左二)
第三八集 二〇〇八年三月三十一日発行		
ラオス中立化とイギリス外交―ジュネーブ会議(一九六二年五月―一九六二年七月)を中心にして―	水本義彦	一
対シンガポール・マレーシア「血債」問題とその「解決」	佐藤 晋	二九
中国人の法意識―各論(一) 中国的な権利意識―	何 鳴	五三
拾遺和歌集の恋部の構造(二)―拾遺抄と比較して―	山崎正伸	六三
「弘法字尽」の研究―『瑠玉集』の諸本研究の一として―	丁 海鈴	八七
式内社阿伎留神社の周辺と宮司阿留多伎家の土師氏系図の紹介	大谷光男	一三五
『蝦夷語箋』の研究	成田修一	一五五
漱石漢詩の一考察	大地武雄	一七三

翻刻 慶應義塾図書館蔵大田錦城講説伊藤忠愷筆記『中庸問書』(一)…………… 清水信子…………… 一八七

〈講演記録〉 韓国の吏読と日本文字の片仮名…………… 柳 尚熙…………… 二三九

〈彙報〉二〇〇七(平成一九) 年度研究所報告・投稿規定・編集後記…………… 本多峰子…………… (左二)

内村鑑三―その預言者的側面についての一考察…………… 野木園子…………… (左一九)

日本語におけるスピーチスタイルの男女差―音の脱落化の観点から…………… 飯田幸裕…………… 一

第三九集 二〇〇九年三月三十一日発行

通貨同盟の条件に関する一考察…………… 瀧田 浩…………… 一七

『おめでたき人』という回路―仰視と俯瞰の技法―…………… 會谷佳光…………… 四三

明代における『仏祖統紀』の流伝と出版…………… 浦野俊則…………… 六七

射漁礼関係金文考釈…………… 高澤浩一…………… 九七

中国人の法意識 各論(二) 中国の物権法が憲法に違反しているか―中国の物権法論争をめぐって…………… 何 鳴…………… 一一七

翻刻 慶應義塾図書館蔵大田錦城講説伊藤忠愷筆記『中庸問書』(二)…………… 清水信子…………… (左二)

〈彙報〉二〇〇八(平成二〇) 年度研究所報告・投稿規定・編集後記…………… 本多峰子…………… (左二)

『今日における宗教教育の課題』―宗教多元的世界における西洋と日本での状況から―…………… 熊 慧蘇…………… 一三

第四〇集 二〇一〇年三月三十一日発行

柳田國男とアジア主義…………… 高見寛孝…………… 一

季吟『假名列女傳』小考―誤訳・解釈・創作―…………… 熊 慧蘇…………… 一三

中村憲吉の嗅覚風景歌について	児玉喜恵子	三二
中国人の法意識 各論(三) 計画経済の法と倫理、と市場経済の法と倫理	何 鳴	五五
漱石漢詩の一考察(三)	大地武雄	八一
天野桃隣評・宝永四年『発句合』 解題と翻刻	大谷弘至	九五
〔彙報〕二〇〇九(平成二二) 年度研究所報告・投稿規定	矢羽勝幸
実存主義とサテイ理論をふまえての生徒指導 愛のある教育を目指して	平宮正志	(左二)
嘉永七年のアイヌ語について	成田修一	(左二五)

第四一集 二〇一一年三月三十一日発行

古代豪族和珥(和邇)氏の出自と中平紀年銘大刀(Ⅱ) 附天理市和爾町有文書目録(近世)	大谷光男	一
シャーマニズムの視座から見た来訪神信仰	高見寛孝	二五
小学校国語教科書のなかの『古事記』 『小學國語讀本卷十二』『第十二古事記の話』の教育意図	土佐秀里	四五
一人称の訳から見る『假名列女傳』の人物像 「妾」の訳語を中心に	熊 慧蘇	六三
中村憲吉の東京	児玉喜恵子	八五
中国人の法意識・各論(四) 現代中国社会における婚姻法の目的	何 鳴	一〇五
漱石漢詩の一考察(四)	大地武雄	一四三
〔彙報〕二〇一〇(平成二二) 年度研究所報告・投稿規定
農氏工文学『春草』についての考察	武永尚子
「生きる」をテーマとした詩作活用エクササイズの潜在的効果を探る研究	劉 力	(左二)

—構成的グループエンカウンターのエクササイズとして— …………… 平宮正志…………… (左三三)

第四二集 二〇一二年三月三十一日発行

日中憑霊文化の比較研究—古典の中の憑霊現象をめぐって—	……………	高見寛孝……………	一
孟法師碑を科学する(二) —初唐三大家との筆意考証と日本近代大家臨書の一考察—	……………	内田征志……………	二五
内田百閒「七體百鬼園」—言語の不透明性と透明な文章—	……………	大谷 哲……………	五九
台湾海峡をめぐる情報と政策—一九五二—一九六四—	……………	佐藤 晋……………	七七
中国人の法意識・各論(五) —土地と生存、土地と所有権—中国農民の法意識—	……………	何 鳴……………	一〇三
〈彙報〉二〇一一(平成二三) 年度研究所報告・投稿規定・編集後記	……………	佐藤 進……………	(左二)
近現代中国における『論語』—『論語』VS『水滸伝』—	……………		

第四三集 二〇一三年三月三十一日発行

『國體の本義』の〈神話〉……………	……………	土佐秀里……………	一
出雲臣の遠祖天穗日命神社の鎮座地—『出雲国風土記』からみた—	……………	大谷光男……………	二七
シヤーマニズムの視座から見た生霊信仰—『源氏物語』をテキストとして—	……………	高見寛孝……………	四九
第一次宗教法案と東本願寺—唐津高德寺資料の紹介—	……………	町泉寿郎……………	七一
「孫過庭書譜」の筆意研究(二) —日本近代大家臨書の一考察—	……………	内田征志……………	九九
『詩經』秦風・車鄰篇に見える寺人に就いて……………	……………	遠藤寛朗……………	一二五
「関帝聖蹟図」の構成要素について……………	……………	伊藤晋太郎……………	一四九

蘇軾『論語説』について……………田中正樹……………一七二

〈彙報〉二〇二二(平成二四)年度研究所報告・投稿規定・編集後記

中国労働者の法意識―中国人の法意識(六)―……………何 鳴……………(左二)

第四四集 二〇一四年三月三十一日発行

『詩経』に於ける祖霊の依代に就いて―裳裳者華篇を中心として―……………遠藤寛朗……………一

童女君の出生―『日本書紀』雄略天皇元年三月条記事について―……………青柳まや……………二九

三卷本『枕草子』「舞は」章段のしくみについての私見……………原由来恵……………五三

芥川龍之介『蜃気楼』の内と外と間―〈詩的精神〉をめぐる―……………大谷 哲……………七一

戦時下〈皇国神話〉の創成と普及―香川頼彦『家庭読本 神代の話』をめぐる―……………土佐秀里……………九五

民間暦 昭和二十四年「やすくに暦」―暦注に問題多く不採用―……………大谷光男……………一二一

「十七帖の研究」(二)―三井聴水閣本からの筆意考証と日本近代大家臨書の一考察―……………内田征志……………一二七

〈彙報〉二〇二三(平成二五)年度研究所報告・投稿規定・編集後記

「我々の家、我々の土地」中国の住民運動と市民社会―中国人の法意識(七)―……………何 鳴……………(左六一)

ソ連の脅威のグローバル化と中曽根内閣の対応……………佐藤 晋……………(左三九)

プラザ合意とバブル期の金融政策……………飯田幸裕……………(左二二)

小渕政権期の文民警察官派遣政策

―国連東ティモール派遣団(UNAMET)参加問題をめぐる内政と外交―……………庄司貴由……………(左二)

第四五集 二〇一五年三月三十一日発行

『詩經』青蠅攷―蠅字の意味するもの……………	遠藤寛朗……………	一
性論攷―中国古代に於ける性論発生の思想的背景……………	山邊進……………	三三
儒教王朝の廢墟に佇む文学―南朝梁・蕭綱の臨終作品について……………	大村和人……………	五五
「争座位文稿の研究」(一)―争座位文稿の筆意から顔真卿の実像に迫る……………	内田征志……………	八三
開高健「玉、碎ける」論―小説のエクリチュールと主体……………	大谷哲……………	一一九
〈資料紹介〉善教寺蔵・小栗憲二「琉球日記」について……………	川邊雄大……………	一四五
〈彙報〉二〇一四(平成二六)年度研究所報告・投稿規定・編集後記……………	何鳴……………	(左二二)
中国女性の法意識―中国人の法意識(八)……………	飯田幸裕……………	(左二)
為替レート制度選択に関する一考察……………		

第四六集 二〇一六年三月三十一日発行

『詩經』に於ける「逍遙」に就いて……………	遠藤寛朗……………	一
「智永草書千字文の研究」(一)―寶墨軒本からの筆意研究……………	内田征志……………	二七
遺骨と遺霊……………	高見寛孝……………	五五
「正しさ」について、そして「記号的に語る」ということの陥穽……………		
―村上春樹『パン屋を襲う』のヴァージョン・アップ……………	大谷哲……………	七九
〈資料紹介〉白華文庫蔵・小栗栖香頂「水築小相伝」について……………	川邊雄大……………	一〇九
〈彙報〉二〇一五(平成二七)年度研究所報告・投稿規定・編集後記……………		

権利意識の後—中国人の法意識(九) —〈結論編〉……………何 鳴……………(左二三)
為替レート制度選択の議論と東アジア諸国の特徴……………飯田幸裕……………(左二)

第四七集 二〇一七年三月三十一日発行

『詩経』に於ける「門」に就いて—「東門」を中心として……………遠藤寛朗……………一
「魯相韓敕造孔廟禮器碑」の筆意研究(一)……………内田征志……………二九
依田学海の『蝦夷風俗彙纂』受容—「蝦夷三孝子二貞婦」の典拠を中心に—……………楊 爽……………六九
西川美和「1983年のほたる」の〈子ども〉から……………大谷 哲……………一〇三

—『ディア・ドクター』のメディア戦略、『ゆれる』との連関、〈言語〉が見せる世界……………飯田幸裕……………(左二二)
〈彙報〉二〇一六(平成二八)年度研究所報告・投稿規定・編集後記……………庄司貴由……………(左二)

東アジア諸国における為替レート制度選択のずれに関する一考察……………飯田幸裕……………(左二二)
外交官柳井俊二とPKO—戦後日本外交における国際平和協力のパイオニア……………庄司貴由……………(左二)

第四八集 二〇一八年三月三十一日発行

魏晉の『國語』注について—王肅・孔晁注の検討……………高橋康浩……………一
「関帝文献」出版の目的—「関帝事蹟徵信編」光緒八年序重刊本を例として……………伊藤晋太郎……………二三
〈講演記録〉古典とその「解釈」—『詩経』を例として……………牧角悦子……………四一
〈資料紹介〉白岩龍平書簡(野崎萬三郎・野崎武吉郎宛)の紹介……………町泉寿郎……………五九
〈彙報〉二〇一七(平成二九)年度研究所報告・投稿規定・編集後記…………………………五九

田中角栄内閣と石油危機―灯油がなくなぐグローバル経済と選挙区―……………佐藤 晋……………(左二)

第四九集 二〇一九年三月二十九日発行

傅玄「便宜五事」考……………高橋康浩……………一

近代日本の漢学と民主主義―三島中洲の場合―……………田中正樹……………二一

〈研究ノート〉韓愈「秋懐詩」をめぐって……………牧角悦子 和久 希……………四九

〈資料紹介〉「王学会記録簿」の解題と翻印……………町泉寿郎 鈴置拓也……………九三

〈書評〉王希恩著『二〇世紀中国における民族問題』(日本語版)について……………川邊雄大……………一一七

〈彙報〉二〇一八(平成三〇)年度研究所報告・投稿規定・編集後記

第五〇集 二〇二〇年三月三十一日発行

小特集 東アジアの中の日本学

〈記念論文〉日中関係と日本学そして共同化する東アジアという視座……………江藤茂博……………一

―研究所設立50周年に寄せて―………………………………………………………………………………

〈講演記録〉日本における中国古典文学研究の現状 ―日本漢学との関連の中で―……………牧角悦子……………一五

勝部謙造と修身教育 ―『新制中等修身書』を中心として―……………平崎真右……………二七

「何もない」現在を見つめること ―文芸時評家としての湯地朝雄―……………山口直孝……………五五

『東洋学研究所集刊』・『東アジア学術総合研究所集刊』第一集〜第五〇集 総目次…………………………七一

東洋学研究所・東アジア学術総合研究所 歴代の所長…………………………………………………………………九六

〈彙報〉二〇一九(令和一)年度研究所報告・投稿規定・編集後記